

「ありがとう」が喜び

戰略的広報推進協議会

国土交通省や建設業団体で構成する建設産業戦略的広報推進協議会は3日、埼玉県春日部市の県立春日部工業高等学校で建設業の仕事内容や魅力を伝える“ギャラバン”を開催した。

当日は、建築科2年生75人が参加。建設業振興基金の松繩修人材育成支援課主任が建設業の仕事

企画室の中屋建一室長は「建設業ってなんだろう」をテーマに仕事内容を解説。今、勉強している内容が仕事でそのように繋がっていくのかを知つてほしい」と呼びかけた。

現場で働く佐藤雅俊氏（大工）、澤田一代氏（職人）、小倉義希氏（保守管理技士）の3人は、実体験



披露=写真。「冬は寒い」と踏んでいた職業の魅力を、夏は暑く就職した当初は嫌だった」と振り返る澤田氏は「20年ぐらいやつてきたが、今は楽しくほとんど一日中仕事をしている」と語る。

育児を「なしながら仕事」を継続する小倉氏は、「男性が多い業界だが、細かい気配りなど女性にしかできない」とあると最近感じている」と仕事を語った。「男性に比べて力がかなわないといふのはまだ皆さんあるが、できないことは悔しい。できないことをできるようにしたいとの思いが強い」と強調した。

仕事の喜びを問われた3人は「お客様にありがとうと言われるところが」と口をそろえた。

進路選択を控える学生からは「平均月収がいくらくか」といった実生活への質問も飛び出した。官民一体で取り組むキヤラバンは、生徒や兒童に建設業の社会的役割やものづくりの素晴らしさを直接語りかけ、交流するプログラム。昨年度から工業高校を対象に開始しており、今年度は小学校や中学校でも開催している。工業高校は通算5校目、小・中学校を含めると通算7校目となるた。